

## 令和7年度 道外農業行政視察の結果について【概要】

1. 日時 令和7年6月10日(火)から令和7年6月13日(金)まで 3泊4日
2. 参加者 山田会長(団長)、山本会長職務代理、松尾委員、安達委員、福田委員、相馬委員、矢萩委員、石垣主事(事務局) 計8名
3. 視察先及び結果【概要】

### ◇視察(1) 「石川県農林水産部」(石川県金沢市鞍月1丁目1番地)

- ・・・石川県農林水産部農業経営戦略課より地震・豪雨による被害と復旧・復興施策の説明を受けた。

#### 【石川県の農業概要】

- ・耕地面積：40,100ha(うち田:33,400ha(約83%))
- ・担い手への農地の集積率：64.2%(R5年度)
- ・農業産出額：484億円(米：235億円、野菜90億円、畜産100億円)(R4年)

#### 【被害状況と営農再開・継続支援等】

##### ○能登半島地震：R6.1.1 16:10頃発生

- ・震度7：志賀町、輪島市、震度6強：七尾市、珠洲市、穴水町、能登町、震度6弱：中能登町
- ・人的被害：死者574人、行方不明者：2人、負傷者：1,269人(R7.4末時点)
- ・住家被害：全壊：6,151棟、半壊：18,646棟、一部損壊：91,261棟、その他：11棟(R7.4末時点)

##### ○奥能登豪雨：R6.9.21から9.23にかけて

- ・輪島観測所：最大60分雨量(120.5mm)、累計雨量(476.5mm)  
輪島市、珠洲市、能登町では「大雨特別警報」が発表され、輪島市では観測史上最大雨量を記録。県管理の28河川が氾濫
- ・地震による被災から復旧を進めている中での豪雨による災害の発生は、極めて異例な複合災害。
- ・人的被害：死者16人、負傷者47人(R7.4末時点)
- ・住家被害：全壊82棟、半壊：656棟、一部損壊：152棟、床上浸水：72棟、床下浸水：897棟(R7.4末時点)

##### ○農林水産関係の被害額

- ・地震：2,942億円、豪雨：531億円。(R6.12末時点)
- ・能登半島地震の被害額は平成以降、日本で2番目に大きな被害額となる見込み。

##### ○農業関係の被害状況

- ・地震：農地の亀裂・法面崩壊、ため池堤防崩壊、農業機械・施設損壊、畜舎損壊など約13,500件の被害
- ・豪雨：農地への土砂・流木堆積、農業機械・施設損壊など約3,500件の被害

#### 【営農再開・継続支援等】

- ・農業用機械、施設の再取得への補助(補助率9/10)  
※地震を受け復旧した機械等が豪雨で再び被災した場合、補助率10/10
- ・水稻苗の確保や地力増進作物の作付けへの補助(補助率2/3)
- ・奥能登営農復旧・復興センターの設置(R6.10から)  
奥能登地域(輪島市、珠洲市、穴水町、能登町)では、地震・豪雨の複合災害により農地に甚大な被害が発生。

※奥能登地域の水稲作付面積は R5 年：2,800ha、R6 年は 1,800ha、R7 年は 1,700ha。  
JA のと本店内(穴水町)に国、県、市町、JA 等を構成員としワンストップの支援組織として同センターを設置。被災機械等再取得や融資の相談対応、農地復旧と耕作者確保の調整、営農再開に向けた作付け指導など各種支援を実施。

・奥能登地域の小規模農家の営農再開に向けた農作業受託促進

被災した機械等の再取得にかかる費用負担や子ども世帯が避難したことによる労働力不足等により小規模農家の一定数が「営農再開は未定」としている。営農負担の軽減を図り離農・耕作放棄地の発生を防止するため、JA が調整し、大規模農家の小規模農家からの田植えや稲刈り等の農作業受託を促進。

※奥能登地域では、農地の 6 割を小規模農家が担っている。

・奥能登地域の大規模農家への支援

経営再建に向けた専門家派遣(被災の少ない地域の法人からの従業員の応援派遣や税理士の派遣など)

生産性向上に向けた新たな技術の導入支援(上限 300 万円/取組み)

(水稲乾田直播やドローンの活用など)

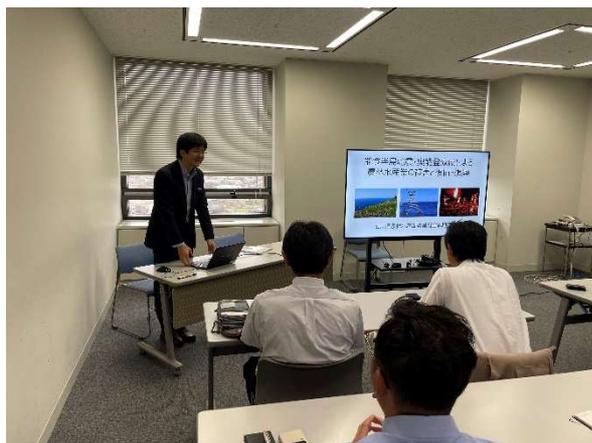
○主な質疑応答

問 1) 被災農業者に対し農地の借賃への補助等がありますか。

答 1) 借賃への補助等は実施していません。

問 2) 農地の復旧に農業者の自己負担はありますか。

答 2) 災害復旧であり、農業者の自己負担はほぼありません。



◇石川県副知事、輪島市の農業者等との意見交換会

- ・県庁での視察後、場所を移し、石川県副知事、同県農林水産部幹部職員、輪島市、志賀町、白山市の農業者の皆様と懇談し、率直な意見交換を行った。

◇視察(2) 「株式会社ペントフォーク」(福井県福井市黒丸町 14-48-2)

- ・ ・ ・伊藤代表取締役社長より事業概要の説明を受けたあと、圃場(田)や精米施設(乾燥機、粃摺機等)を視察し、直営レストランにて米粉加工品(フォー、シフォンケーキ、パン、米粉の衣の鶏から揚げ)を試食。

【会社概要等】

- ・ 設立：2009年1月5日 ・ 社員数：40名(内役員2名)
  - ・ 伊藤社長略歴：NTT、ベトナム駐在、外資系勤務を経て2016年から農業分野に参画  
2017年より代表取締役
  - ・ 事業内容：水稻栽培、育苗、米粉を用いた加工品(パン・麺など)製造、直売所・レストラン運営など
- ※2020年4月にグルテンフリー加工工場完成(FSSC22000、GFCO 認証取得)

【説明概要】

- ・ 長粒種(米粉専用米：越穂)等を自社栽培。
- ・ 長粒種の特徴は、食物繊維が豊富(コシヒカリの4倍)で多収米。  
※コシヒカリは1穂に約100粒、越穂は約200粒。
- ・ 米粉は小麦などに含まれるグルテンを含まないグルテンフリー食材。  
2021年からグルテンフリー商品に注力。グルテンフリーや米粉への注目度アップからミドルアッパー層の顧客が増加。  
(米粉のシフォンケーキの納入先はクイーンズ伊勢丹、成城石井、ナチュラルローソンなど)
- ・ 経営戦略として、顧客のメインターゲットは、健康意識の高いミドルアッパー層の女性と考えている。
- ・ 10%農業で儲かる経営を目標とし実践している。  
全社員の年間総労働時間の10%を農業、残りを販売部門、加工部門に割り振っている。  
農業専門に従事している社員は1名のみ。稲作で多忙なのは5月なのでその時期は他部門の社員も農業に従事。

